

平成31年1月17日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示している。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期から薬剤防除する。</li> <li>発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	オンシツコ ナジラミ	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期から薬剤防除する。</li> <li>施設内外の除草や黄色粘着板の設置等で耕種的・物理的防除に努める。</li> </ul>
	タバココナ ジラミ	やや多	1月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：日照時間並	
キ ャ ベ ツ	菌核病	やや多	1月上旬発生量 冬キャベツ：並 春キャベツ：並 気象予報：気温並から高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取りほ場外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するように、ていねいに行う。</li> </ul>
冬 レ タ ス	菌核病	やや多	1月上旬発生量：並 気象予報：気温並から高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>トンネル内が多湿にならないよう、換気に努める。</li> </ul>
	腐敗病	並	1月上旬発生量：並 気象予報：気温並から高(-) 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期から薬剤防除する。</li> <li>発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	アザミウマ類	やや多	1月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>黄色粘着板等により物理的防除を行う。</li> </ul>
	ハダニ類	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>葉裏に薬剤が十分付着するようにいねいに散布する。</li> </ul>
施設野菜共通	灰色かび病	やや多	1月上旬発生量 冬春トマト：やや多（＋） イチゴ：並 気象予報：日照時間並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。</li> <li>発病葉、発病果は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
カーネーション	アザミウマ類	並	12月下旬発生量：並 12月黄色粘着板誘殺数：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。</li> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
	ハダニ類	並	12月下旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
ストック	菌核病	やや多	12月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：並 気象予報：気温並から高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。</li> <li>施設栽培では過湿にならないよう注意する。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	コナガ	多	12月下旬発生量 施設ストック：やや多（+） 露地ストック：並 1月上旬発生量 冬キャベツ：多（+） 春キャベツ：やや多（+） 12月フェロモントラップ誘殺数 ：多（+） 気象予報：気温並から高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期発見に努め、発生初期に防除する。</li> <li>・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### 水稻の種子消毒について

水稻の種子伝染性の病害には、糸状菌によるイネばか苗病（写真）、いもち病及びごま葉枯病等と、細菌による苗立枯細菌病、もみ枯細菌病及び褐条病がある。防除は種子消毒で行うが、種子消毒をしたにもかかわらず上記の病害が発生した事例があり、聞き取りの結果、薬剤の効果に対する誤解や効果的な使用ができていないことが分かった。そこで、以下の点に注意して種子消毒する。

#### 1 作業場、機具及び機材等の清掃と消毒

作業場や機具を事前に清掃してから、育苗箱やシート等を「ケミクロンG」で消毒する。稲わらやもみ殻、粉じんには、イネばか苗病菌が付着していることがあり、汚染の原因となるため。

#### 2 種子の準備

細菌病対策として塩水選を行うこと。また、種もみを置くシートやパレットは、「消毒前」と「消毒後」で使い分けること。

#### 3 種子消毒の注意点

##### (1) 化学合成農薬による浸漬処理

- ・種子に薬液を均一に付着させるため、種もみ袋に種子を詰めすぎないこと。
- ・種子1kgに対し薬液を2ℓ以上使用すること。
- ・薬液の温度について10～15℃を保てる場所で浸漬処理をすること。
- ・薬剤の継ぎ足し等による薬液の使い回しはしないこと。
- ・ヘルシードTフロアブルによる浸漬処理の作業手順について、JA全農ちばホームページで「種もみの種子消毒紹介VTR」が掲載されているため参考とする(<https://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html>)。

##### (2) 温湯消毒

- ・温湯消毒は、イネばか苗病及びもみ枯細菌病に対しては化学合成農薬より効果が劣り、褐条病には効果が低い。
- ・薬剤を使用しないため残効性は無い。
- ・殺菌効果と発芽力を両立させるため処理の温度と時間を厳守すること。
- ・割れもみや、もち品種では、熱による発芽率の低下を受けやすい。

##### (3) 微生物農薬による浸漬処理

- ・温湯消毒後の体系処理に適している。
- ・効果を発揮させるため、薬剤処理時及び処理後に薬剤成分である無害化した菌を増殖させる必要がある。
- ・効果が期待できない病原菌があるため、薬剤処理の方法や注意点について次項（表）の注釈を参考とする。

#### 4 種子消毒後の管理

##### (1) 浸種【水温10～15℃】

- ・種子消毒で薬剤処理した場合、薬剤の効果を維持するため、初めの2日間は水交換を避け、水交換の時は溜めた水に沈めるなど静かに行うこと。
- ・イネばか苗病の発生が懸念される場合には水温10℃を目安とする。



写真 イネばか苗病（左）  
第2・3葉が徒長している

(2) 催芽【30℃】

催芽温度はイネばか苗病菌や細菌が増殖する温度帯（30～32℃）と重なるため、催芽器を使用する場合は30℃を超えないように保ち、ハト胸状態になるまで確実に催芽を行うこと。

(3) 播種後の温度管理

- ・ 温度計は床土近くに設置し、日中の床土の温度を30℃より高くしないこと。
- ・ 夜間の保温に努めること。
- ・ ビニールハウスの被覆材が新しい場合は日射が強いため換気や遮光資材の使用等で高温にならぬよう注意すること。
- ・ 劣化した育苗用アルミ蒸着シートの使用は高温障害が発生するため使用しないこと。

表 浸漬処理で使用できる主な種子消毒薬剤（注1）

処理方法	FRACコード (注2)	薬剤名	使用時期	希釈倍率 使用量 処理時間	かび（糸状菌）					細菌病			
					ばか苗病	いもち病	ごま葉枯病	苗立枯病 リゾー プス菌 トリコ デルマ菌		苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	褐条病	
浸漬	3	スポルタック乳剤	浸種前	100倍・10分間 又は 1,000倍・24時間	○	○	○						
		トリフミン水和剤（注3）	浸種前	30倍・10分間 又は 300倍・24～48時間	○	○	○						
		トリフミン乳剤											
	M03	ヘルシードTフロアブル	浸種前	20倍・10分間 200倍・24時間	○	○	○	○	○		○	○	○
		テクリードCフロアブル （注4）	浸種前	20倍・10分間 又は 200倍・24時間	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	モミガードC・DF（注4）	浸種前	200倍・24時間	○	○	○				○	○	○
		なし (微生物農薬)	エコホープ（注5）	浸種前～ 催芽前	200倍・24～48時間	○	○	○	○			○	○
	催芽時			200倍・24時間	○	○	○	○			○	○	
	エコホープD J（注5）		浸種前～ 催芽前	200倍・24～48時間	○						○	○	○
			浸種前～ 催芽時	200倍・24時間		○		○					
	タフブロック（注6）	浸種前	20倍・1時間					○	○				
		浸種前～ 催芽前	20倍・1時間	○	○						○	○	
		催芽前	200倍・24～48時間	○	○			○	○	○	○	○	
		催芽時	200倍・24時間	○	○			○	○	○	○	○	○

注1 表中に記載した農薬は、いずれもWCS用イネに使用できる。使用の場合は、農林水産省のホームページで確認されたい([http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l\\_siry/](http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siry/))。

注2 FRACコードは、殺菌剤の作用機構（効き方）による分類(<http://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/code.html>)。

注3 「トリフミン水和剤」で浸漬処理した場合は、処理後もみ表面が白くなるまで風乾してから浸種を行う。

注4 「テクリードCフロアブル」「モミガードC・DF」は、ハト胸催芽機やエアレーション付きの水槽等では使用しない。また、亜鉛製の器具は使用しない。

注5 微生物農薬である「エコホープ」「エコホープD J」は、育苗期に発生するピシウム菌、フザリウム菌、トリコデルマ菌による立枯病に対する効果は期待できないため、育苗管理は、低温の遭遇や水分過多にならないよう注意する。また、これらの病害を防除する場合は、ダコニール剤やタチガレン剤、タチガレエースM剤による用土消毒を行う。ただし、種子消毒剤や、は種時以降のダコレート及びベンレート剤は使用しない。

注6 微生物農薬である「タフブロック」は、育苗期に発生するピシウム菌による立枯病に対する効果は期待できないため、育苗管理は、低温の遭遇や水分過多にならないよう注意する。また、これらの病害を防除する場合は、タチガレン剤やタチガレエースM剤による用土消毒を行う。ただし、種子消毒剤や、は種時以降のダコニール、ダコレート及びベンレート剤は使用しない。

## 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：1月上旬，花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (海匠, 長生, 君津)	萎凋症	萎凋株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	0.27	2.31	2.40	
	疫病	発病株率 (%)	0.27	0.29	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	4.33	2.83	1.33	
	〃	果実発病度	1.92	0.67	0.27	
	葉かび病	発病株率 (%)	0.00	2.39	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.33	1.25	0.87	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.67	0.65	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.88	0.33	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病率 (%)	19.00	—	12.00	平成27年 度から作 型を変更 したため, 平年値は 無し
	褐斑病	発病率 (%)	0.00	—	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	—	0.60	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	—	0.80	
	べと病	発病率 (%)	2.25	—	6.60	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	6.00	—	0.80	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	9.00	—	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	—	0.00	
	冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.26	
黒腐病		発病度	5.60	0.09	0.20	
アブラムシ類		成幼虫寄生株率 (%)	5.60	0.27	0.80	
コナガ		25株当たり寄生幼虫蛹数	2.20	0.12	0.20	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.03	0.25	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.50	0.00	
	コナガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.80	0.18	0.00	
冬レタス (安房, 君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.41	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	1.90	2.21	0.80	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.40	0.56	1.20	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.96	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
イチゴ (海匠, 山武, 安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	1.43	6.82	3.27	
	〃	発病果率 (%)	0.05	0.50	0.13	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	9.11	3.93	2.41	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.72	0.12	1.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	24.25	23.60	40.27	
	カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.48	0.80
立枯病		発病株率 (%)	0.00	0.48	2.40	
アブラムシ類		成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
〃		黄色粘着板誘殺数	38.80	12.96	3.40	
アザミウマ類		被害株率 (%)	13.60	16.08	24.80	
〃		黄色粘着板誘殺数	0.60	2.12	4.60	
ハダニ類		雌成虫寄生株率 (%)	0.80	6.56	0.00	
ストック (安房)	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.80	
	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	1.04	1.60	
	コナガ (露地)	幼虫寄生株率 (%)	6.00	6.24	9.60	
	コナガ (施設)	幼虫寄生株率 (%)	2.40	1.28	1.60	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	1.00	12.77	3.20	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	

トラップ月間誘殺数（12月）

単位：頭

種類	病害虫名	トラップ設置場所	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匝, 安房	71.1	12.8	12.8	

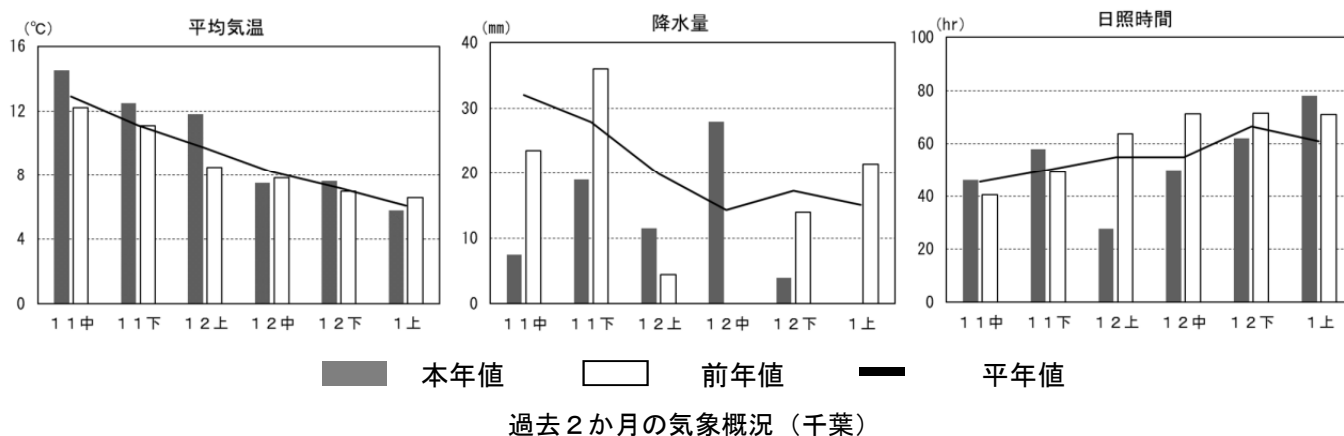
## ○気象予報

1月10日気象庁地球環境・海洋部発表  
関東甲信地方における向こう1か月の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

向こう1か月の各気象要素の平年値  
(1月17~2月16日 銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	5.6	6.2	6.2
降水量(mm)	61.2	86.5	73.7
日照時間(hr)	184.1	173.0	171.4



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は3月7日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

[https://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp